

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)文教大学越谷キャンパス新棟	階数	地上5F
建設地	埼玉県越谷市大字南荻島字出津33	構造	SRC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	2,260 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,900 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2021年3月30日
敷地面積	49,080 m ²	作成者	(株)昭和設計 吉川康彦
建築面積	990 m ²	確認日	2021年4月1日
延床面積	3,976 m ²	確認者	(株)昭和設計 吉川康彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2</p> <p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 87%</p> <p>③上記+②以外の 87%</p> <p>④上記+ 87%</p> <p>0 46 92 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.1</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.4</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.7</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.2</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 2.8</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>大学施設として、熱負荷を抑えた居住性、および将来の用途変更を考慮してゆとりのある建築計画とする</p>	<p>その他</p> <p>0</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>室内の空気質に配慮した、内装材・換気量とする</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>将来の用途変更を考慮してゆとりのある空間設計とする 大学用としてコンセプトを明確にし、使用者の利用環境に配慮した内装設計とする 更新必要間隔の長い内装材、および配管材を採用する</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>0</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>外気温による熱負荷を抑えた断熱設計とする</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型衛生器具を採用し、水資源への配慮を図る</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>大気汚染物質を発生させない設備を導入する 省エネルギー性能の高い設備機器を採用することで、運用時のCO₂排出量を抑える</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)文教大学越谷キャンパス新棟建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						3.1	
Q1 室内環境			0.40		-		3.2		
1 音環境		3.3	0.15	-	-		3.3		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-				
1.2 遮音		3.9	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能	遮音性能等級T-2の建具を採用	5.0	0.30	-	-				
2 界壁遮音性能	教室Dr予測値=40以上	4.0	0.30	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	-	-				
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		2.7	0.35	-	-		2.7		
2.1 室温制御		3.6	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.60	-	-				
2 外皮性能	外皮U値: 0.47[W/m ² K]、窓U値: 3.38[W/m ² K]、窓SC:0.47	4.6	0.40	-	-				
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		3.4	0.25	-	-		3.4		
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-				
1 昼光率		3.0	0.60	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-				
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-				
1 昼光制御	教室に面したブラインド、ルーバーあり	4.0	1.00	-	-				
3.3 照度	設計照度500lx以上	4.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-				
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-		3.7		
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	規格F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	4.0	1.00	-	-				
4.2 換気		3.6	0.30	-	-				
1 換気量	シックハウス基準(0.3回)の1.4倍以上	5.0	0.33	-	-				
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-				
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.4		
1 機能性		3.3	0.40	-	-		3.3		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.5	0.30	-	-				
1 広さ感・景観		2.0	0.50	-	-				
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-				
3 内装計画	大学としてのコンセプトを明確にした内装計画あり	5.0	0.50	-	-				
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い内装材、水切りあり、金属メッキあり	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-		3.0		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:ビニル床(20年)、内壁:ケイカル板(30年) 、天井:石膏ボード(30年)	5.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	冷媒:被覆銅管(レベルC)、給水管:ポリエチレン管(レベルB) 、消火管:炭素鋼管白(レベルC)	4.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			4.1	0.30	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.2m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1 ≤ 壁長さ比率 < 0.3	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重 3500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	更新時、壁の破壊を伴わない設計	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m = 0.56	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.79	3.1	0.50	-	-	3.1
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、節水型機器あり	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装材が躯体+LGS+仕上げ材となっている	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率= 87%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止		燃焼機器無し	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋内照明、広告物照明への対策あり	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	